

令和4年度授業改善推進プラン 各教科の具体的な授業改善策

文京区立大塚小学校

具体的な授業改善策						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○話すときの姿勢や口形、声の大きさ、話す速さに気を付けるように働きかける。 ○相手の話を聞くときには話し手の方を見て、手遊びなどをしないで聞くように、繰り返し、指導する。 ○一人一人の気持ちや経験を大切にしておその日の出来事や知らせたいことを原稿用紙に書くことを継続的に行っていく。 ○音読を通して内容の理解を深め、言葉への関心を高める。 ○OM1Mの教材の早口言葉や、「3つの言葉を探そう」に取り組み、正確に読むこと、言葉のかたまりを意識して読むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話したいことが伝わるように、話型を使うこと、声の大きさや話す速さに気を付けて話すことを指導する。 ○話を聞くときには話し手の方を見て聞き、うなずくなどの反応を返すことを、繰り返し指導する。 ○順序を意識して作文を書けるように、構成メモを利用したり、接続詞や順序を表す言葉などを意識させたりする。 ○新出漢字の学習では、漢字への関心を高め、定着を図るため、成り立ちや部首、似ている漢字、学習に出てこない読みなどにも触れていく。 ○内容の理解を深めるために、音読カードを活用し繰り返し音読に取り組ませる。 ○週に1回以上、読み聞かせや図書の時間を設定し、読書の楽しさを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話すときには、話の中心を明確にできるように、効果的な例の使い方について指導する。 ○聞くときには、話の中心が何か意識して聞けるよう中心となる語や文を捉えさせる。 ○初め、中、終わりを意識して文章が書けるよう、週に1回以上日記を書く宿題を出す。 ○漢字が定着するよう、再テストを行った後、確実に直しをさせたりする。 ○目的を意識して内容を把握できるよう、中心となる語や文の見付け方を押さえる。 ○語彙を増やしたり、多くの文章に触れたりすることができるよう、司書と連携して幅広く読書できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝えたい中心をはっきりさせ、結論を先に話す等、相手に明確に伝わるよう工夫させる。 ○姿勢、体の向き、視線を向けること、うなづいて聞く、メモを取りながら聞くなどの指導を行う。 ○相手の考えの良さに気付くことができるように、発表を聞く際には自分の考えとの共通点や相違点を考えながら相手の発言を聞き取りに指導する。 ○叙述から読み取った内容を基に分掌に対しての感想をもてるように、文章の読み取りを丁寧に行う。 ○目的や意図に応じて書く事柄を整理し、相手意識をもって分かりやすく書かせるようする。 ○漢字が定着するよう宿題で漢字テスト勉強に取り組ませる。また、授業内でミニテストを行う。 ○場面・段落の前後の関係を捉えやすくするために、場面や段落を表や構成図にまとめる活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手の目的や意図に応じて考えをまとめられるよう、ペアやグループで聞き合う活動を取り入れる。 ○必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話の内容を捉えられるよう指導を行う。 ○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考える。 ○漢字を定着させるために、テストで点数が取れなかったときには個別指導を行うなど、継続して指導する。 ○朝読書や読み聞かせの時間などを通して、本を読む習慣を身に付けさせる。 ○事実と感想、意見を押さえ、要旨を把握するために、キーワードを捉える学習を繰り返す。 ○目的に応じて的確に読み取る能力を高めるために、今必要な情報をはっきり捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料等を提示しながら自分の考えが伝わるように表現を工夫する場面を設定する。 ○目的や意図に応じて話す材料を集められるよう、準備の期間を十分に確保しながら、朝のスピーチの時間を設定する。 ○目的や意図に応じて話の内容を捉えられよう、メモをとったり、要旨を問う活動をしたりする。 ○書くことに意欲をもてるよう、児童が構成や展開を考える学習を設定する。 ○読みの視点を広げられるよう、押さえるべき叙述を教師が意図的に示す。 ○事例と筆者の主張を押さえ、要旨を把握するために、キーワードを捉える学習を繰り返す。 ○目的に応じて的確に読み取る能力を高めるために、今必要な情報をはっきり捉えさせる。 ○要旨を捉えられるよう、事実と感想、意見などとの関係をしっかりと押さえる。
社会	/		<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習に向かえるよう、児童の言葉で学習問題を作成する。 ○必要な情報を調べたりまとめたりできるように、資料の使い方について指導する。 ○考えたことを表現できるよう、いくつかの事象を比較したり、事象の意味を考えさせたりするなどの視点を与える。 ○多角的な見方、考え方ができるように、自分から見て考えたことだけではなく、様々な人の立場に立って考える場面を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体的に学習に向かうことができるように、児童の発言から学習課題を作成する。 ○資料を活用できる場の保証を図るために、教科書・資料集、地図帳など、各自が所有しているものに加え、図書室の豊富な書物資料を活用する。 ○学習内容の理解への支援を図るために、写真や映像資料の提示や社会科見学など校外の教育資源を活用する。 ○社会との関わり方について考えることができるように、学習感想では自分だったらどのようなことができるかについて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に対して、自己解決の時間を十分に確保し、自分の力で資料を読み取る力を育成する。 ○資料から読み取ったことに対して、分かったことをまとめられるようにする。 ○教科書や資料集などを活用し、調べたことを分かりやすくまとめさせる。 ○考えを伝え合う活動を通して、考えをさらに深める。 ○学習したことと自分の生活との関わりを考え、学習を広げ、他教科とも繋げることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをもてるよう、立場や根拠を明確にして議論する学習を設定する。 ○歴史上の事象を手掛かりにして、自ら問題を追究・解決する学習を設定する。 ○歴史の展開が表現できるよう、世の中の様子や人物の動きに着目させる。 ○情報を丁寧に読み取って理解し、学習ごとにまとめる学習を設定する。 ○政治に関する学習したことを、自分との関わりとして捉え、自分の生活に生かせるような活動を取り入れる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物操作に重点を置くとともに、算数的活動を充実させ、数の量感をつかませる。 ○具体物の操作を十分に行ってから抽象物へ移行し、たし算・ひき算の基礎・基本を定着させる。 ○速く正確に計算できるように繰り返し練習に取り組ませる。 ○文章題の内容を理解し、正しく立式したり、式から問題を作ったりする時間を確保して理解の一層の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物を操作しながら、自分の考えを言葉や図を使ってまとめる時間を確保したり、少人数での話し合いの場を設定したりして、考える時間や考えを発表する場の充実を図る。 ○少人数指導を通して、個に応じた指導を行う。特に、基礎的基本的な内容については、確実に身に付けることができるよう、少人数担当教員と連携を図りながら、個別支援を行う。 ○家庭とも連携を図りながら、繰り返し計算練習に取り組ませ、定着を確実にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実態に合った指導ができるよう、担任、少人数指導担当教員で授業の進度や指導法、児童の学習状況等について連携を図る。 ○数の表し方や計算の仕方などについて考えられるよう、具体物や図を用いて指導する。 ○思考力が高まるよう、図・式・言葉を結び付けて考えを説明する場面を設ける。 ○既習事項を生かせるよう、宿題やプリントなどで反復学習を行う。 ○計算の技能が高まるよう、東京ベーシックドリル等を生かして個々の習熟度を把握し、個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実態に合った指導ができるよう、担任、少人数担当教員で授業の進度や指導方法、児童の学習状況等の連携を図る。 ○少人数指導で個に応じた支援を行うために、単元前にレディネステストを実施し、実態に応じたクラス分けができるようにする。 ○ものさし、三角定規、コンパス、分度器の使い方を確実に習得できるよう、一人一人の作図の様子をチェックし、徹底を図る。 ○思考力が高まるよう、問題文から、図や表・数直線に表し、考えを説明する場を設ける。 ○基礎的基本的な内容の確実な定着を図るため、ドリルやプリント学習などを継続して復習を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導で個に応じた支援を行う。 ○問題解決型の学習を行うことで、めあてに対して主体的に学習に取り組み、自分の考えを形成することができるようにする。 ○問題を正しく読み取る力や答えの見当（みつもり）を付ける習慣を身に付けさせる。 ○自信をもって発言・表現できるように、言葉・図・式、数直線に表すなど表現する手立てを教え、実践させる。 ○量感をもたせたり、式の意味を想像させたりする時間を大切にす。 ○互いの考え・考えを読み合い、聞き合い、感想を言い合う時間を設ける。 ○計算の技能が高まるよう、東京ベーシックドリル等を生かして個々の習熟度を把握し、個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導担当教員と、授業の進度、指導法、児童の学習状況等について連携をとる。 ○授業は、問題解決的な過程で展開し、じっくりと考える場、考えを伝え合う場、反復練習等で定着を図る場などを取り入れ、学習内容の理解や定着を図る。 ○自信をもって発言・表現できるように、自力解決の時間を十分に確保する。 ○思考・表現するために必要な技能として言葉や図・式、数直線に表すなど表現するための手立てを教え、実践させる。 ○量感をもたせたり、式の意味を想像させたりする時間を大切にす。 ○互いの考え・考えを読み合い、聞き合い、感想を言い合う時間を設ける。 ○計算の技能が高まるよう、東京ベーシックドリル等を生かして個々の習熟度を把握し、個別指導を行う。
理科	/		<ul style="list-style-type: none"> ○科学的な根拠をもって考える力が育つ 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象から見出した問題に 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に目を向けながら条件について調 	<ul style="list-style-type: none"> ○根拠を明確にして、予想や仮説を立てさ

			<p>よう、科学的事象に対して、疑問をもてるような発問をしたり、実験や観察の結果から考察したりできるよう指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象についての差異点・共通点から問題を見出すことができるよう、導入で植物を育てた経験から想起させる工夫を行う。 ○自己の疑問や課題を解決することができるよう、実験、観察を行うときには、疑問→予想→実験→結果→考察→新たな疑問というサイクルを意識させるようにする。 ○安全に観察、実験を行うことができるよう、事前に器具の使い方や注意点を周知・徹底させる。 	<p>ついて、既習の問題や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想するといった問題解決の力を育成するために、身近な事柄を想起させる導入の工夫や、既習事項の確認を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な予想や結果を比べ、自分で問題解決をしたいという意欲を高めるために、意見交流の場を設ける。 ○問題解決の力を育てるために、疑問→根拠をもった予想→実験→結果→考察→新たな疑問というサイクルを定着させる。 	<p>べ、見出し出した問題を実験や観察によって計画的に追究させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○条件制御をした実験方法の立案を確実に身に付けさせる。 ○実験器具や薬品の正しい扱い方の指導を徹底する。 ○実験や観察の目的を明確にし、その方法を確認してから取り組ませる。 ○実験や観察と並行して、映像資料を効果的に用いて理解を深める。 	<p>せ、それを基にして、計画的に実験や観察を行わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験のまとめでは、結果と、実験から分かったことやその根拠を区別して考察・表現させる。 ○自分自身で安全を確認した上で実験を行うことができるように指導する。 ○薬品や実験道具などの正しい扱い方の指導を徹底する。 ○実験や観察の目的を明確にする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○上級生や幼稚園児・保育園児との交流を取り入れる。 ○朝顔などの植物を育てたり観察したりすることを通して、発見したこと、気付いたことを「観察カード」等に記録させ、身近なところにある様々なことに気付き、興味をもって活動できるようにしていく。 ○「お手伝い」をテーマにした授業を計画的に行い、家庭の協力も得て、家族の中での自分の役割を自覚させていく。 ○活動の視点を明確に提示し、児童の思考を焦点化する。グループ編成を工夫し、気付いたことや発見したことをすすんで発表できるように雰囲気作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を通して、様々な体験ができるように配慮した指導計画を立てる。 ○町探検や自然観察では「記録カード」を活用し、発見や疑問を記録させ、その後の活動に活かす。 ○町探検を通して、自分たちの生活は様々な人たちに支えられていることに気付かせていく。また、野菜の栽培を通して、植物の種類に合わせた世話の仕方があることに気付かせる。 ○活動に必要な用具の安全な使い方を教えるとともに、実践を通して、片付けや整理整頓の習慣を付ける。 				
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○ハンドサインやキーボードを用いて、楽譜の読み書きの基礎・基本を定着できるようにする。 ○できるようになった喜びを感じながら、自己肯定感を高めていくことができるように、授業のねらいを焦点化する。 ○楽しみながら音楽の要素を感じ取ることのできるよう、音楽に合わせて身体を動かす活動や様々な音楽を鑑賞する活動を取り入れる。 ○ワークシートや板書を工夫し、分かりやすい授業づくりをする。 ○児童の様子を見取り、児童の実態に合わせた個別指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○できるようになった喜びを感じながら、自己肯定感を高めていくことができるように、授業のねらいを焦点化する。 ○楽しみながら音楽の要素を感じ取ることのできるよう、音楽に合わせて身体を動かす活動や様々な音楽を鑑賞する活動を取り入れる。 ○ワークシートや板書を工夫し、分かりやすい授業づくりをする。 ○児童の様子を見取り、児童の実態に合わせた授業計画を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに学習したこと生かして取り込むことができるように、題材計画を工夫する。 ○感じたことや表現したいことを言葉でまとめたり発表したりできるよう、語彙を用意したり、板書を工夫したりする。 ○分かりやすい授業づくりのため、技能のポイントを視覚化したり、ワークシートを工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループやペアなど様々な学習形態での練習や、スモールステップでの学習を通して、器楽の技能の向上を目指す。 ○感じ取ったことを自らの言葉で表現し、互いに伝え合う場を授業の中に設けることで、思いや意図をもって表現できるようにする。 ○分かりやすい授業づくりのため、技能のポイントを視覚化したり、ワークシートを工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○難しい部分を取り出して繰り返し練習することで、表現の技能を高める。 ○どのように表現したいのかという思いをもち、自信をもって発言できるよう、ペアやグループで伝え合う活動を適宜取り入れる。 ○児童が意欲的に学習に取り組むことができるよう、実態に合った教材選びや題材計画を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアやグループ、学級全体など、様々な練習形態をもつことで、互いの演奏を聴き、高め合いながら、美しい響きを体得させる。 ○どのように表現したいのかという思いをもち、自信をもって発言できるよう、ペアやグループで伝え合う活動を適宜取り入れる。 ○児童が意欲的に学習に取り組むことができるよう、実態に合った教材選びや題材計画を行う。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ○子供のつぶやきを大切に、子供たちが楽しみながら活動できるよう、一人一人に声を掛けながら、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ○はさみやのりの使い方、紙を折る、ちぎるなど、指先を使って表現する題材を工夫する。 ○様々な身近な材料にふれながら、創造的に楽しくつくる場を工夫する。 ○友達の仕事から、面白さや楽しさを見つけて、互いによさを認め合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標や扱う材料や手順を分かりやすく提示し、スモールステップにすることで、達成感をもたせ、活動意欲を高めるようにする。 ○はさみやカッターナイフなどの道具を使う題材を通して、道具を使う経験の充実を図り、安全な用具の使い方や片付け方なども身に付けさせる。 ○材料の特徴や色・形に着目させながら、創造的につくり表したりできるようにする。 ○鑑賞の時間の充実を図り、友達の仕事などから、面白さや楽しさを感じ取り、伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手や体全体を動かして、試しながら工夫して作品を作ることができる題材を工夫する。 ○導入時に色・形等の造形的な見方に着目させるような工夫をすることで、発想を広げながら表現する力を身に付けさせる。 ○金槌やのこぎりなどの道具の扱い方を知り、正しく安全に扱えるようにする。 ○鑑賞の時間の充実を図り、友達の仕事のよさや面白さに気付き、お互いに認め合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発想を広げながら作品を作ることができるよう、手や体全体を働かせたり試行錯誤しやすい材料を使用したり、児童同士で関わるができる等、題材や活動内容を工夫する。 ○導入時に色・形等の造形的な見方に着目させる工夫をすることで、豊かに表現できる力を身に付けさせる。 ○彫刻刀等の道具の扱い方を知り、正しく安全に扱えるようにする。 ○鑑賞の時間の充実を図り、友達の仕事のよさや面白さに気付き、お互いを認め合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供たちの経験を活かしながら、興味をもち、すすんで表現したくなるような題材選択を行う。 ○色や形、構成の美しさ等造形的な見方に着目しながら表現できるように、導入や題材を工夫する。 ○スモールステップで活動を区切りながら、達成感をもたせ、意欲を継続しながら作品に取り組めるようにする。 ○表現したいものに合わせて、道具や材料を適切に選び、正しく安全に扱いながら、作品づくりをする力を養う。 ○鑑賞の時間の充実を図り、友達の仕事のよさや面白さに気付き、お互いを認め合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供たちの経験を活かしながら、達成感をもたせ、すすんで表現したくなるような題材選択を行う。 ○色や形、構成の美しさ等造形的な見方に着目しながら豊かに表現できるように、導入や題材を工夫する。 ○使用する素材や材料などの特徴をとらえ、用途などを考えながら作品づくりができるようにする。 ○個別に声掛けをしなが、うまいへたでなく自分の作品や活動に納得できるように支援していく。 ○鑑賞の時間の充実を図り、友達の仕事のよさや面白さに気付き、お互いを認め合えるようにする。
家庭					<ul style="list-style-type: none"> ○技能のポイントを示す資料・実物の提示、DVDの活用を行う。 ○自分の家庭を振り返る機会を多くし、家族のためにできることを考えさせ、学習したことを生かして実践していくよう進めていく。「チャレンジカード」を活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○1食分の献立を考えさせ、「作り手」となることにより、課題を意識させる。3学期には、小学校の学習のまとめとして、給食の献立作り挑戦させ、意識の向上を図る。 ○学習したことを家でも実践することを

					する。	呼びかける。特に、長期休みには「チャレンジカード」を活用して、実践を促す。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の運動経験差を考慮し、無理のないように楽しく学習することができるような活動を取り入れる。 ○運動のきまりやルールを守り、勝敗を素直に認めたり、互いの良さを認め合ったりできるようにする。 ○友達同士で協力し合い、励まし合ったり、競い合ったりする場面を取り入れる。 ○運動する時間を十分に確保した指導の流れを工夫し、様々な動きを経験させる。 ○健康トレーナーと連携し、コーディネーショントレーニング等を積極的に取り入れ運動感覚を養う。 ○基本的な動きを確認しながら運動に取り組むことで、基本的な動きを身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則や安全を守る意識が身に付くよう、運動をする場所や器具の扱い方などを指導していく。 ○運動のきまりやルールを守り、勝敗を素直に認めたり、互いの良さを認め合ったりできるようにする。 ○分かりやすい掲示物や言葉かけを工夫することで、児童自らがルールを工夫して運動することができるようにする。 ○個人の課題に向かって挑戦する時間やそれに対する振り返りの時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則や安全を守る意識が身に付くよう、運動をする場所や器具の扱い方などを指導する。 ○運動の楽しさや喜びに触れられるよう、様々な運動に取り組む場面を設けたり、自己の能力に合った運動に取り組む場面を設けたりする。 ○自己の課題や、次時の課題を見つけられるよう、学習カードを使用したり、授業の終わりに振り返りの時間を設けたりする。 ○基本的な動きや技能を身に付けることができるよう、児童に分かりやすい言葉で説明し、見本を示したり、映像資料などを用いたりして効果的に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則や安全を守る意識が身に付くよう、運動をする場所や器具の扱い方などを指導していく。 ○個人の能力が伸びるように、つまずきが見られる児童や、更にステップアップできる児童に対して、能力に応じた場の工夫を行う。 ○運動の楽しさや喜びに触れ、誰とでも仲良く運動ができるように、チームで作戦を考えたり、競い合ったりする活動を取り入れていく。 ○自己の課題や、次時の課題を見つけられるよう、学習カードを使用したり、授業の終わりに振り返りの時間を設けたりしていく。 ○基本的な動きや技能を身に付けることができるよう、児童に分かりやすい言葉で説明し、見本を示したり、映像資料などを用いたりして効果的に示していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動のきまりやルールを守り、勝敗を素直に認めたり、互いの良さを認め合ったりできるようにする。 ○場の工夫をし、運動量を確保する。 ○掲示物や学習カード、声掛けなど支援の工夫をする。 ○運動の仕方を分かりやすく提示し、個に応じた指導をしたり練習の場を用意したりする。 ○タブレット端末等を活用して、自分の体の使い方を確認して、技能の向上に生かす。 ○学習カードを用いて、思考力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動のルールを守り、勝敗を素直に認めたり、互いのよさを認め合ったりできるように声掛けをする。 ○運動の仕方を分かりやすく提示・配布したり、声掛けをしたりして、個に応じた指導をしていく。 ○授業の見通しがもてるように、単元の流れを提示する。 ○タブレット端末等を活用して、自分の体の使い方を確認して、技能の向上に生かす。 ○自分の運動能力に合った課題をもって取り組めるように「学習カード」を活用する。
外国語					<ul style="list-style-type: none"> ○指導方法の工夫や雰囲気作りをすることで、英語に対しての苦手意識を軽減させる。 ○ALT との体験的な活動を活発にして、言語や文化への理解を深める。 ○ゲーム活動を取り入れ、積極的に相手とコミュニケーションが取れるようにする。 ○ワークブックを用いて、自分の学習の仕方を振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発話が多くなるよう、チャッツや対友達、対教師・ALT のやり取りする活動を意図的に取り入れる。 ○コミュニケーションを図る態度を養えるよう、ALT と HRT のやり取りを効果的に入れる。 ○ALT との体験的な活動を活発にして、言語や文化への理解を深める。